

愛媛・南江戸みなみえどくじゆめ鰯目遺跡

- 1 所在地 愛媛県松山市南江戸
- 2 調査期間 第二次調査 二〇〇一年(平13)六月～二〇〇二年四月
- 3 発掘機関 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 中野良一・北山育美
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(三津浜)

れた氾濫原に位置する遺跡で、大峰ヶ台丘陵の南裾部を流れる宮前川の南岸にあたる。調査は宮前川の河川改修に伴うものである。

南江戸地区では過去二〇
数力所の調査が行なわれ、
古代末から中世の遺構が多
数検出され、広範に点在す

る集落(村落)の様相が明らかになりつつある。

今回の調査では、東西二カ所の居住域（東は推定七〇m四方、西は推定三五m四方）が確認された。木簡は、東の居住域北限と宮前川との間の砂地から出土した。この他、墨痕は認められないが、薄い板材の上端を台形状に成形し、下方にむかって徐々に幅を狭め、下端は尖らせる形態の木製品が一点出土している。この場所では漆碗や箸、加工木材片なども出土しており、これらはこの場所に廃棄されたものと考えられる。この他、土師器の杯・皿・碗、瓦器碗、常滑焼の甕など遺物の種類も多く、土器溜りも存在しており、出土量は膨大である。特に中国陶磁器類は約千点も出土しており、鎌倉期の遺跡としては県下で最も多い。なお、木簡の時期は、居住域で認められる土器溜りの土師器杯からみて、一四世紀前後と考えられる。

8 木簡の积文・内容

(1)

(57) $\times 28 \times 3$ 019

上端部のみ残存している木簡で、薄い板材を使用しており、上端は丸みをもつ台形状に成形している。側面は削り調整と思われる。表面は僅かに墨痕が認められるが、釈読できない。



(中野良一)